

ラトナキールティの *Citrādvaitaprakāśavāda* 梗概

北 原 裕 全

*Citrādvaitaprakāśavāda*¹⁾ は、後期唯識思想における有相説・無相説の対論を跡付けることができる文献として基礎資料となるものである。以下にこの書の構成を概観してその基本的性格と作者自身の問題意識とを窺ってみたい。

Citrādvaitaprakāśavāda 梗概

	RNA 頁, 行
0 帰敬と偈頌 (造論の意図)	129 ¹⁻³
1 自説の立場 (sthiti)	129 ⁴⁻⁹
「或るものの、或るとき、或る限りの形象群の顕現である 或る知識が発現するが、そのものの、そのときの、その限りの形象群 (ākārakakra) をそなえたその知識 (vijñāna) は多様不二 (citrādvaita) である。」	
2 異見と推理式	129 ¹⁰ —141 ²⁹
異見／誤解 (vipratipatti)	
<多様であること>と<不二 (単一、一体であること)>との矛盾	
推理式：《必然性》およそ照出するもの (yat prakāśate), それは一なるもの (eka) である。あたかも多様な形象群の中にある青の形象のように。	
《所属性》この、白い・ガンダーラ調の・甘い・芳しい・柔かい・喜ばしい及び [それら白などとは] 逆のものなどの多様な形象群は照出する。	
[結論：多様な形象群は一なるものである。]	
本性が証因である論証	
2.1 証因が不成立 (asiddha) であることを否定 (遍是宗法性の検証)	129 ²²⁻²³
2.2 証因が矛盾 (viruddha)・不確定 (anaikāntika) であることを否定	129 ²³ —141 ²⁹
2.2.1 実例の主辞 (青) は照出する (同品定有性の検証)	130 ¹⁻³²
2.2.1.1 実例の主辞は一ではないとする説を否定	130 ²⁻³²

- 2.2.1.1.1 知識を切り分けた場合の非現実性 (知の極微説批判) を主張 130⁷⁻²¹
- 2.2.1.1.2 粗大な顕現は一である (遍充) 130²³⁻²²
- 2.2.2 異品遍無性が疑わしいことに関する検討と回答 130³³-141²⁹
- 2.2.2.1 知識の対象領域は二通り (grāhya · adhyavaseya) であり, 異類例は間接決定によって成立する (adhyavasāya-siddha) 131⁴-141⁸
- 「顕現しつつあるもの (pratibhāsamāna) が把捉されるべきもの (grāhya)。把捉されるものでなくても, 活動の対象領域になるものが間接決定されるべきもの (adhyavaseya)。」
- 2.2.2.1.1 異類例は把捉されない 131¹³-133²²
- 2.2.2.1.1.1 事物・非事物を本体とする全異類例が顕現するという説を否定 131¹³-132³¹
- 2.2.2.1.1.2 間接決定されるべきものとして異類例が把捉されるという考えを否定 132³²-133²²
- 2.2.2.1.2 間接決定に関する批判の提示 133²³-136¹⁷
- 2.2.2.1.2.1 無相唯識派による (?) 批判の提示 133²³-135⁴
- 2.2.2.1.2.2 トリローチャナによる間接決定批判の提示 135⁵⁻¹⁵
- 2.2.2.1.2.3 ヴァーチャスパティによる間接決定批判の提示 135¹⁶-136¹⁷
- 2.2.2.1.2.4 無相唯識派による批判の提示 137⁷⁻¹⁷
- 2.2.2.1.3 (回答) 錯乱・間接決定・解脱 136¹⁸-141⁸
- 2.2.2.1.3.1 錯乱——その消滅によって解脱にいたるもの——とは何か 136¹⁸-138²⁶
- 2.2.2.1.3.1.1 <非存在が顕現する>説を否定 136²³-137²
- 2.2.2.1.3.1.2 <非-Aに対してAと把捉する>説が, 子細な検討を加えないかぎりにおいて好ましいこと, その消滅が解脱 137³-139¹⁴
- 2.2.2.1.3.1.2.1 把捉しなくても他所への活動をひきおこす間接決定 137⁶⁻²⁴
- 2.2.2.1.3.1.2.2 顕現がなくても, <対象領域-対象に関心をもつもののあり方>は<間接決定-間接決定するもののあり方>によって可能 137²⁵⁻³³
- 2.2.2.1.3.1.2.3 把捉しなくても分別の能力が定まっているので活動は定まった対象領域をもつ 139¹⁻¹¹

2.2.2.1.3.1.2.4 付託 (samāropa 想定) によって活動があるのではない

138¹²⁻²⁶

2.2.2.1.3.2 間接決定と分別

139¹⁵-141⁸

※ tad evam apratibhāsino' pi vipakṣād adhyavasāyamātrasiddhād
eva vyāvṛtto, doṣatrayanirmuktaḥ prakāśamānatātmako hetur,
yāvat prakāśāvadhiḥ nānātmakacitrākārācākṛasya ekatvaṃ sād-
yati eva//

2.3 まとめの頌と集成頌 (Saṃgrahaśloka)

141⁹⁻²⁹

——以上が本論，以下は補説——

3 (2.2.1.1.1 補説) 実例と実例によって例えられているもの (青と多様な形象群)
における〈一であること〉は，矛盾した属性が存するから直接知覚と推理と
にもとづいて否定された，という説 (シャータラクシタ説) を排す

141³⁰-144³⁰

3.1 区別達成者としての直接知覚 (bhedaśādhakam pratyakṣam) を否定

141³²-143³²

3.1.1 直接知覚は区別 (bheda) されない

141³²-143⁵

3.1.1.1 直接知覚は青などを本体としないという考え方を否定

141³²-142²²

3.1.1.2 直接知覚は青などを本体とすると考える場合，区別によって形象消失
の帰謬におちいる

142²³⁻²⁵

3.1.1.3 多様不二が自己認識という直接知覚 (svasaṃvedanapratyakṣa) によって
成立する

142²⁶-143⁵

3.1.2 顕現 (pratibhāsa) は区別されない

143⁶⁻¹⁴

3.1.2.1 顕現が形象群を意図した場合を検討して否定

143⁶⁻¹¹

3.1.2.2 顕現が「発現」(sphuraṇa) を意図した場合を検討して否定

143¹²⁻¹⁴

3.1.2.2.1 発現は本質的に切り分けない自己認識

143¹²

3.1.2.2.2 無明に影響されて形象の区別がある

143¹²⁻¹⁴

3.1.3 区別は外界において成立するので，遍充されたものも区別されなくな
ってしまうということはない

143¹⁵⁻¹⁹

3.1.4 照出と形象群の無区別は照出のみか形象群のみとなってしまうという
説を否定

143²⁰⁻³⁰

3.1.5 排除による区別 (vyāvṛttibheda) を検討

143³¹⁻³²

3.2 まとめの頌
結頌

144¹⁻³⁰

結: *Citrādvaitaprakāśavāda* は冒頭で「形象群をそなえた知識は多様不二である」との立場を定立し、これについて推理式をたてて多様不二を論証する科(第2科)と、自己認識という直接知覚の観点から多様不二を論ずる科(第3科)とから構成されている。前者が本論にあたり後者は補説と位置付けることができる。

推理の特色は<一であること>を徴表する証因に *prakāśamānatā* をあてている点²⁾、異類例を明確に設定して検討している点にある。異類例は *adhyavasāya* によって成立するとされる。

本書が提起した第一の異見は、直接知覚と推理によって形象の区別が成立していると主張して形象群の一体性を否定する説である³⁾。この説はシャーンタラクシタ(『中観莊嚴論』第50偈, 第49偈, 及びその前提となる第31-32偈)に辿ることができる。この説に対する反駁が本書を著す主たる心理的要因となっている。

-
- 1) TEXT: *Citrādvaitaprakāśavāda*, in *Ratnakirtinibandhāvaliḥ* [略号 RNA] (2nd. rev. ed.) ed. by A. Thakur, Patna 1975, pp. 129-144.
 - 2) ジニャーナシリミトラは *bhāsamānatā* を用い (*Sākārasaṃgraha* IV 136, *Jñānaōrimitranibandhāvali* [略号 JNA] p. 569), *prakāśamānatā* は知識の有形象性を徴表する証因に用いられる (*Advaitabindu*, JNA p. 358).
 - 3) 第3科の冒頭で次のような前主張が提示される。— “*nanu ca atra dṛṣṭāntadārṣṭ-antikayor ubhayatra apy ekatvaṃ pratyakṣo' numānāc ca viruddhadharmādhyaśalakṣaṇāt pratihatam, tat katham anumānād ekatvasiddhir*” ここでいう、実例と実例によって譬えられているもの双方における一体性を否定する議論が、異見 (*vipratipatti*) とされるものである (RNA p. 143¹⁻²).

<キーワード> 多様不二, 有相唯識, ラトナキールティ, *prakāśa*

(高野山大学大学院)